京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
（761）2054 直通
（751）2111（内線2571）
振替・京都3909
（1部30円 1年間1,000円）

3・1—5 ロックアウトに連日の反撃

検問を突破、構内に突入
3・2 機動隊が再度導入さる

竹本処分粉砕闘争は、二月の二度にわたる機動隊の学内導入・乱入という密集した弾圧攻勢の前に、一次の雄を問われながらも困難な局面を迎えていた。前田総長、沢田農学部長を筆頭とする当局側はさらに反動化し「評議会はただちに竹本処分を決定せよ」と横面もなく迫えながら闘争被壊にのみ執着する日共・民青は、卒業、進級期を前に危機感を感じた政党派勢力は逆合し一月二十日以来の経済学部無期限ストは解除され、理・薬学部でも既存派は著しく台頭してきた。

さらに「入試業務の遂行」を名目に、三月二日から五日迄の学内ロックアウトが強行され、全闘連は、にあいながらも、連日の抗議闘争を貫徹した。五日のロックアウト解除と同時に、前田総長は「掲示第三号」をトライキ闘争、封鎖・占拠闘争をさらに強権的に弾圧する姿勢を見せており警察権力との癒着を強め、ますます反動化してくる大学当局の居直りに、全学の教職員・学生の密集した反撃が展開されている。

三月三日から五日迄での入学試験の遂行のために、京大当局は一日午前〇時から五日午後四時迄で学内ロックアウト措置を強行し、これに対して、同学会・全闘連は連日のロック粉砕闘争を貫徹した。この学生の闘いに、当局は機動隊導入でもって弾圧し、二日には入試業務本部に突入し前田総長を追及した三名の学生が不当にも逮捕された。

当局は、この一日からのロックアウトによって、現在無期限ストライキが続けられている文、理、農学部を中心に、占拠中の文、工、農、経済学部事務室や、教養部A号館の教養部長室など教室、さらに封鎖中の文学部新、旧館、農学部新館、学生部などの封鎖、占拠を機動隊に守られた教職員によって解除し、ロックアウト期間中、一切の学内での集会や情宣活動などを禁止する旨の告示を出した。そして、大学周辺に多数の機動隊が配置され、各門に教職員が立って検門を行ない、入構許可証を提示しない者の入構を禁じた。

このように、学生自治活動を強制的に封じ、学内での活動を許さないというこのロックアウトは、大衆的に展開されつつある学生処分粉砕闘争への直接的な弾圧であり、同学会は、二月二十八日に、中島委員長代行名で、前田総長など、当局者に対して要求書を出し、ロックアウトを行なわず、団交に応じるよう求めた。そして、ロックアウトの強行後は、一日から五日迄で、連日のロックアウト粉砕闘争を取組んだ。

一日には、検門を打ち破って、本部構内、教養部構内に登場した全闘連の部隊は、ロックアウトに強く抗議する集会とデモンストレーションを行ない、本部構内で前田総長と団交するとともに、同学会の要求書を突きつけた。

二日には、受験生に対して入試会場の掲示が出され、全受験生が登校したが、昼過ぎに、北部構内で農学部新館の検門を行なう農学部教官を追及した農学部闘争委の学生約三十名が、検門を粉砕し、本部正門を押しあけて時計台前に登場したのを最初に、全闘連の学生は次々と本部構内に突入し、多数受験生の苦目の中で、時計台前構内をデモンストレーションを行なったが、これに対して、当局は待機させていた機動隊を学内に導入し、学生を暴力的に学外へ追い出した。その後、坂本学生部長ととられた全闘連は、再度本部構内に入って、時計台前で受験生を含んだ追及集会を行ない、ロックアウトを解除するよう迫った。しかし、坂本学生部長は「総長の命令だから」と、没主体的に返するのみで、一切誠実な姿勢を見せず、学生の受験生の怒りをかうばかりであった。さらに三名の学生は入試業務本部に突入し、その場に居た前田総長を追及したが、この学生を「監禁罪」ならびに不法侵入で逮捕し、連行した。この弾圧に抗議して、全闘連は再度本部構内に突入し、以後本部正門では一切検門を許さず、自由な入構を保障した。

入試第二日目の三日には、全闘連は昼に東大闘争を貫徹した金閣寺を貫徹し、入試第三日目の五日には、全闘連は本部正門を開いて時計台前に突入して集会を行ない、学内デモを貫徹した。そして午後には、吉田寮で、同学会の主催で受験生との討論集会が行なわれた。また、同時刻に、反帝学評も西部構内で受験生との討論集会を行なった。

この学生の闘いの前に、当局は予定を早めて、五日午後四時にロックアウトを解除したが、同時刻に、反帝学評も西部構内で受験生との討論集会を行なった。

入試第三日目の三日、五日の学内ロックアウトに連日の反撃を強行した。

この日の学生の闘いの前に、当局は予定を早めて、五日午後四時にロックアウトを解除したが、同時刻に、反帝学評も西部構内で受験生との討論集会を行なった。

この学生の闘いの前に、当局は予定を早めて、五日午後四時にロックアウトを解除したが、同時刻に、反帝学評も西部構内で受験生との討論集会を行なった。

入試第三日目の三日には、全闘連は、昼休みに本部に突入、時計台前で受験生をまき込んで集会を行ない、本部構内のデモンストレーションを貫徹した。

入試最終日の五日には、試験終了の午前十一時半に、全闘連は本部正門を開いて時計台前に突入して集会を行ない、学内デモを貫徹した。そして午後には、吉田寮で、同学会の主催で受験生との討論集会が行なわれた。また、同時刻に、反帝学評も西部構内で受験生との討論集会を行なった。

この学生の闘いの前に、当局は予定を早めて、五日午後四時にロックアウトを解除したが、同時刻に、反帝学評も西部構内で受験生との討論集会を行なった。

入試第三日目の三日には、全闘連は、三名の学生の不当逮捕に抗議し、本部構内デモを行ない、本部構内のデモンストレーションを行なった

最終答申粉砕へ決起

2・27法制審粉砕闘争

保安処分戦線の豊かな形成を

二月二十日、法制審総会での改正刑法草案の最終審議・答申を前に、法制審粉砕実行委と全日本法学生ゼミ（全日法）2・27実行委を中心に、刑法改正・保安処分新設粉砕、法制審最終答申粉砕の闘いが、昼夜にわたり闘いぬかれた。

この日の闘いは、法制審が草案八回にわたる総会において、改正刑法草案の大部分の「審議」をおえ、この日の総会をもって採決・法務大臣への答申へと、改正案の法制化への最終的打ち固めが行なわれんとしている事に対し、七一年十二・五以降の保安処分戦線の分断化策動を突破し、豊かな共闘戦線の構築をかみすうつつ、原則的共闘機関の形成、刑法改正との全面的対決、粉砕をめざすものとして闘いぬかれた。

午前十時、東京・日比谷公園に結集した全日法ゼミ・2・27実行委を中心とする五十名の部隊は、簡単な意思一致の集会のち、総会の開かれている法務省へむけ、繰返しの突撃を貫徹した。法制審内の〝改正強行派〟はこの日の審議をもって勝大臣への答申へと突進をもくろんでおり、小公園内からの突撃は、この間三度にわたり闘い抜かれ刑法学会闘争、京大、東大、東北大、同志社大など中心に闘われた刑法教授団及闘争などの法制化阻止闘争の成果の上に国会内での闘い「一切第約せんとする社会ブロックの「改正反対」運動神田学生調粉砕、精神病院解体闘争を闘いぬいている患者、家族会、精医研、精神科医共闘などの結合を追求するものとして闘いぬかれた。

午後からは教育屋敷での圧倒的な情宣を貫徹し、大明からの清水谷公園での労学集会に合流した。

（編集部）

編集部では読者諸兄からの投稿を編集会議を通して紙面化しています。原稿は400字詰原稿用紙5枚程度。（編集部）

学園論壇

昨日十二月七日、ソウル高裁は、在日朝鮮人の岳国留学生・徐勝君に対する第二審判決公判で、「無期懲役」の判決を下した。

すでに懲役十年の刑が確定している弟の徐俊植君に対する救援運動を含めて、この徐君兄弟を救う会などは、この徐勝君の不当判決に多数の傍聴団をソウルに派遣したが、その一員として、十一月二十一日と十二月十二日ともソウルに滞在し、公判の傍聴を行なった徐君兄弟を守る京大有志の会の阿部治郎氏は、帰国後、この徐勝君の第三審（最終審）は、三月十三日に後、時にソウル大法院で判決が下される予定である。

（タイトル写真は、求刑公判で、最終陳述を終え、公判廷出る徐勝君）（編集部）

「在日朝鮮人は日本の植民地時代に、強制的、半強制的に日本に連行され、ありとあらゆる苦労の末に、解放を迎えるに至りました。が、日本社会において、その社会的搾取の故、多くの民族的差別、民族的迫害を受けてきました。在日朝鮮人社会においてこのような事件があるは学生等事件をあげることができる。これは韓国においてのみならず、日本人全体はじめ多くの人々の関心を集めました。この理由は何んでしょうか。それはほかでもなく、これらのことが在日朝鮮人の実態の矛盾点の二つの集約された表現であるからです。では民族的であるとは？　それは、学生である故に自分が韓国人であると感じ意識するものです。逆にいうならば、積極的意味での民族意識を

2・20 反戦米兵と連帯して

ミッドウェー入港阻止闘わる

二月一二日、横須賀勤労会館で米第七艦隊空母ミッドウェーの横須賀母港化阻止に向け集会が行なわれた。

「新たに前進するべき十八人民の革命闘争と連帯」、空母ミッドウェー寄港第七艦隊母港化阻止現地総決起集会は、労働者生活高校生約四百名が結集し、2・20闘争実行委の主催によって開始され、「組合の御用化に反対する会」そして、反戦米兵の支援を行っているとケリアリ共闘氏から、空母ミッドウェーに乗組んでいる反戦米兵のグループからの集会にあげて送られてきたメッセージを手紙の紹介がなされ、反戦米兵の闘いと連帯して確認した。

続いて、反軍反基地闘争を闘っている諸団体の発言に入り、厚木基地解体共闘、11・8相模原闘争委員会代表、陸上自衛隊朝霞駐屯地闘争、日本闘争天神反戦からのアピール、相模原たたの市民が戦車を止める会からのアピール、そして労働者からは、神奈川自治体労研からの決意表明を受け、最後に日本反帝戦線、プロ青同、東京反戦からの決意表明をもって発言を終えり、スローガンの採択、シュプレヒコール、インターの斉唱をもって集会を終え、児童文園から、反戦・全学連（北米委員会）を先頭に、市内の基地闘争デモンストレーションを貫徹した。

早稲田

全学ストライキ闘争で

試験粉砕・総長団交へ

早大における、行動委を先頭とする日自治会執行部を徹底し、学内管理支配の中枢、大学当局の村井総長との団交の実現を目指して、各学部の団交の実現を勝ちとるべく、この闘いの前に、大学当局は、試験の延期実施を強行しようとしている。

そして、2月28日からの入学試験を前に、全学構内をロックアウトし、正常化攻撃を図り、闘争の圧殺・弾圧を「社会的責任」の行使をかりなさいて、正当化しようとしている。

これに対して、行動委・自治会によって、入試強行、入試制度粉砕闘争、受験生、高校生、全国の闘う部分と連帯した闘いとして進められようとしている。

そしてストライキ中はいはいは、学外に逃亡して団交を拒否しようとしている。

また、早大当局は、学内管理中枢部分は、学外に逃亡して団交を拒否しようとしている。

また、早大当局は、学内管理中枢部分は、学外に逃亡して団交を拒否しようとしている。

そして、2月28日からの入学試験を前に、全学構内をロックアウトし、正常化攻撃を図り、闘争の圧殺・弾圧を「社会的責任」の行使をかりなさいて、正当化しようとしている。

これに対して、行動委・自治会によって、入試強行、入試制度粉砕闘争、受験生、高校生、全国の闘う部分と連帯した闘いとして進められようとしている。

そしてストライキ中はいはいは

無罪判決下る

今出川カルチェ公判

二月十五日、今出川カルチェ闘争において、京都地裁鈴木敏裁判官は、京大農学部と同志社大の学生に対して、両名とも無罪の判決を言い渡した。

この事件は、六九年九月二一日の京大への機動隊導入に抗議する2・22今出川カルチェ闘争において、闘いに不当弾圧を加えていた警官に対して被告両名が投石をし、公務の執行を妨害したというものである。

裁判において検察側の証人として登場した警察官は、学生を誘導する途中、被告が石を投げたのを現認し、その服装・身長などを確認した七三歩離れたと主張し、途中一時見失いはしたものの速やかに最初から追跡していた学生を逮捕したと証言した。

「警察官は石を野球のボールを投げるようなフォームで投石したと証言したが、実際投げた石は利きであり、その証言のデタラメさのみならず、それが意図的な虚言であることを、自ら暴露した。

判決では、無罪の理由として「証拠不十分」という立場をとっているが、この裁判の本質は、裁判の進行の過程で明白になったように、警察・検察当局が共謀して、今回の無罪判決のもつ意味は大きいといわねばならない。

徐君兄弟を守る京大有志の会

（第3種郵便物認可）

フランス語

初級・中級・上級・会話
フランス文学・翻訳
ラボによる特別講座

春期講座

4月11日(水)—6月23日(土)
受付：3月19日(月)—3月28日(水)
4月4日(水)—4月10日(火)

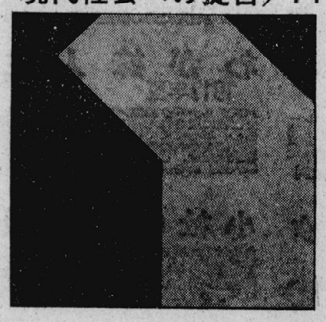
関西日仏学館

京都市左京区吉田東一条
TEL：761—2105（代）

新しい就職情報が、誕生しました。

●“就職問題”の混乱を学生の側からとらえ直し、求人企業に問題提起をもとめました。
●表面的なデータばかりの求人広告ではありません、高度な“読み、考える情報”です。
●全国12大学の学生の自主的編集によって、はじめて誕生した新しい“就職情報”です。
●あなたの大学でも、近く配布が始まります。是非御一読下さるようお願いします。

現代社会への提言／74



編集・発行 大学情報センター　東京都千代田区富士見 2-3-27 ハーモニー会館1号館内 電話 03（263）7935

参加企業一覧

旭化成工業	椿本チェイン
稲畑産業	東京海上火災保険
岡三證券	東京芝浦電気
沖電気工業	東京藤井
鐘淵化学工業	日本アイ・ビー・エム
協和醗酵工業	日本長期信用銀行
神戸製鋼所	野村證券
埼玉銀行	花　咲
住友海上火災保険	日立化成工業
住友信託銀行	富士写真フィルム
第一勧業銀行	三井信託銀行
大同製鋼	三井造船
ダイキン工業	三井東圧化学
大和銀行	安田信託銀行
大和證券	安田生命
中央信託銀行	山一證券
千代田化工建設	山　善

（アイウエオ順）